

Dance ダンス Dance ダンス Dance ダンス



JDSFブレیکنブロック選手権2020開催

2020年度定例理事会

ダンススポーツZOOM懇親会



公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2020 No. 96



来たとき よりも キレイに!

世界に示す、クリーンジャパン



KEEP EVERYTHING
MORE BEAUTIFUL
THAN IT WAS.

Show the world, CLEAN JAPAN!



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
公益財団法人 日本オリンピック委員会



持久系アスリートへ。
パフォーマンスに必要な栄養を。

BOURBON
WIN GRAM
ブルボン ウィングラム



ラインナップ



エナジックウォーター

ウォーターローディングにおすすめ!

- **持久力をサポート**
持久系糖質(パラチノース)配合
エネルギー産生サポート成分(L-カルニチン)配合
ミネラル(Na, Ca, K, Mg)配合
- **甘さ控えめ**
運動中でも飲みやすいよう、甘さは控えめ
- **ヒトの体液に近い浸透圧**
エナジックウォーター: 269mOsm/L
ヒトの体液※: 約290mOsm/L
※出典: Med. Sci. Sports Exerc., 39:377-390, 2007.

エナジックウォーター 500ml×24本 **送料込**

申込番号 **WG-011** **5,184円**(本体価格:4,800円)

○内容量:500ml×24本 ○賞味期限:製造日より12ヵ月
○商品サイズ:68.5×68.5×208mm(1本)



ハイカーボ300

カーボローディングにおすすめ!

- **糖質75g(300kcal)配合**
運動で失うエネルギーのチャージとリカバリーをサポート
- **クエン酸配合**
アスリートに嬉しいクエン酸を1,116mg(1製品当たり)配合

ハイカーボ300 180g×6袋×2箱 **送料込**

申込番号 **WG-002** **4,082円**(本体価格:3,780円)

○内容量:180g×6袋×2箱 ○賞味期限:製造日より10ヵ月
○商品サイズ:80×54×135mm(1袋)



ハイカーボ300 180g×6袋×4箱 **送料込**

申込番号 **WG-003** **7,776円**(本体価格:7,200円)

○内容量:180g×6袋×4箱 ○賞味期限:製造日より10ヵ月
○商品サイズ:80×54×135mm(1袋)



産学共同開発



青山学院大学 陸上競技部 原晋 監督

2017年の箱根駅伝で史上初の大会3連覇と年度3冠(出雲駅伝・全日本大学駅伝・箱根駅伝)を同時達成に導く

長距離の場合、練習後やレース後はグリコーゲンが枯渇した状態になっています。その状態でグリコーゲンの素となる糖質をとることで、グリコーゲンの貯蔵量が高まるといわれています。そのため、簡単にたくさんの糖質をとることができる商品が必要としていました。また、一般的なスポーツドリンクは、甘すぎるため2倍に薄めて飲んでいましたが、糖質・ミネラル補給の観点から薄めずに飲めるスポーツドリンクを求めています。

ウィングラムサポートスポーツ



日本ダンス
スポーツ連盟



ダンススポーツの振興を目的とした日本における競技ダンスの統括団体。世界ダンススポーツ連盟(World Dance Sport Federation:WDSF)の日本代表組織であり、世界88の国・地域のダンススポーツ組織と協力して、世界選手権、アジア太平洋選手権等の国際公式競技会の開催、ダンススポーツの普及等の活動を積極的に展開している。

アンチドーピング認証



米国BSCG社が審査するアンチドーピング認証を取得しています。



ブルボンオンラインショップ <https://shop.bourbon.jp>

通信販売専用
フリーダイヤル **0120-580-284**

■ 月曜～土曜 8時30分～18時まで(土曜は17時まで) ■ 日曜祝日は休み

お問い合わせ先 株式会社 **ブルボン**

〒945-8611 新潟県柏崎駅前1丁目3番1号

<https://www.bourbon.co.jp/>

お客様相談センター ☎0120-28-5605

ブレイキン ブロック選手権 2020開催!



日本ダンススポーツ連盟(JDSF)ブレイクダンス本部は、2020年8月1日からSNSとオンライン配信を使用した日本初開催であるブロック選手権を開催します。今回は、第33回オリンピック競技大会(2024 / パリ)で種目採用予定の1対1のブレイキン競技(ダンスバトル)が実施されます。それに伴い7月24日(日)、石川勝之JDSFブレイクダンス部長と白井健太郎副事務局長がYouTubeで第1回JDSF Breaking Summit を開催。概要説明を行いました。

1次予選はinstagramへ投稿した動画を5名のジャッジが審査し、47都道府県を6つのブロックに分けて各地方で開催するトーナメント本選へは、一次予選を通過した各カテゴリー上位4名のみが参加することができます。

また、トーナメント本選は無観客で実施、イベントサイトで無料ライブ配信される動画で観戦することができます。

このブロック選手権の勝者は、2020年11月末に開催予定の全日本ブレイキン選手権の出場権を手に入れることができ、全日本で優勝すると2020年の全日本チャンピオンとなります。

そして注目の発表がありました。次世代の育成としてユース以下のJOCジュニアオリンピックカップブレイキン選手権予選会が11月7日川崎ドリームカップで、小学生1年生から3年生、4年生から6年生のカテゴリーに分けて上位2名ずつ合計4名の

選手が出場権を得られます。ダンススポーツでもJOCジュニアオリンピックカップとして、スタンダード、ラテン競技が競われております。

第3回ユースオリンピック(2018年/ブエノスアイレス)では日本選手団が金メダル2つ、銅メダル1つの快挙や、2019年南京で開催された世界ダンススポーツ連盟主催の世界選手権においても女子金メダル、男子銀メダルを獲得、今後も世界で活躍が期待される競技です。JOCジュニアオリンピックカップ、ユースオリンピック、パリオリンピックと繋がり、ブレイキンの仲間たちの夢は大きく膨らみます。



ブエノスアイレスでのユースオリンピック代表選手と役員



ジャッジの発表



クロマキー合成用の背景で動画を撮影する石川勝之JDSFブレイクダンス部長(katsu one)と白井健太郎ブレイキン副事務局長(Kentaraw)



J D S F B R E A K I N G
**BLOCK BATTLE
SERIES 2020**
日本ダンススポーツ連盟 ブレイキン ブロック選手権

<開催概要>

- ・大会名称:JDSF ブレイキン ブロック選手権 2020
- ・競技:ブレイキン 1on1
- ・カテゴリー:ユース部門(男性・女性) / オープン部門(男性・女性)
- ・日時:2020年 8月1日~10月3日

<ブレイキンサミット 説明会>

7月24日 17:00~

大会に関する説明会を実施。

<オーディション形式 一次予選>

8月1日~8月16日

Instagram にアップした動画をフォームより送付してエントリー。

<トーナメント形式 本戦>

※オーディション形式を通過した選手で、各カテゴリー上位4名(合計8名)のみが出場可能。

- 9月5日 関東甲信越ブロック(東京)
- 9月13日 北海道東北ブロック(仙台)
- 9月19日 中部北陸ブロック(名古屋)
- 9月26日 九州沖縄ブロック(福岡)
- 9月27日 中国四国ブロック(広島)
- 10月3日 関西ブロック(大阪)

※出場ブロックは自身の住民票がある都道府県が属するブロックが対象となる。

- ・主催:日本ダンススポーツ連盟 ブレイクダンス本部 (<https://breaking.jdsf.jp/>)
- ・エントリー費:無料(ダンサー登録必須)

※ダンサー登録なしでエントリーする場合、全カテゴリー共通 8,500円

- ・配信:大会サイト(<https://www.japanbreakdance.com/>) からご覧頂けます。



<取材、写真・映像素材について>

一次予選の取材はお受けしておりません。

各ブロックで開催する本戦トーナメントの取材は、コロナ感染予防の為に、人数と時間を指定させて頂いております。取材をご希望の場合は、JDSF ブレイクダンス本部へお問い合わせください。

大会終了後、記事掲載に限り無償で素材等を提供させて頂きます。ご希望される場合は、下記へお問い合わせください。

日本ダンススポーツ連盟 ブレイクダンス本部
担当 白井 breaking@jdsf.or.jp

<問い合わせ先>

日本ダンススポーツ連盟 ブレイクダンス本部 (<https://breaking.jdsf.jp/>)
担当 白井 breaking@jdsf.or.jp



2020年度定例理事会

2020年8月9日(日)、東京有明のJDSF本部DTCにおいて、2020年度定例理事会が開催されました。すでに多方面でご案内の通り、新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応した、4月21日(火)からの事務局休業などに伴い順延されてきたものです。当日は、理事18名のうち、欠席2名を除いた16名の理事(うち5名はGoogle Meetによるオンライン参加)、幹事諸氏等による会議となりました。



開会のあいさつを行った齊藤斗志二会長

定刻の14:00分、齊藤斗志二会長による開会のあいさつからスタートした理事会は、早速、議案の審議に進みました。

当日、上程された議案は11にのぼり、これに7件の報告事項が加わります。各内容は以下の通りでした。

- 第1号議案：未来ダンスアスリート育成資産の運用と取り崩しの件
- 第2号議案：2019年度事業報告及び決算の件
- 第3号議案：新型コロナウイルス問題に対する緊急借入金等の対応の件
- 第4号議案：機構改革の件
- 第5号議案：諸規程の制定及び改正の件
- 第6号議案：定款変更の件
- 第7号議案：役員選任の件
- 第8号議案：2021年度正会員選挙に関する選挙管理委員長等の指名
- 第9号議案：会費に関する規程改正の件
- 第10号議案：給与規程改正の件
- 第11号議案：今後の総会と定例理事会日程について その他

- 報告事項1：新型コロナウイルス感染症の影響による事務局の休業について
- 報告事項2：新型コロナウイルス関連の各種助成金への対応状況について
- 報告事項3：新型コロナウイルス問題に対応した今後の事業のあり方について
- 報告事項4：県体協への加盟進捗状況について
- 報告事項5：市原理事の中国新聞への投稿記事
- 報告事項6：今後の主な主催事業

1) オールジャパンジュニアリレーション、2) 第39回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権／第2回全日本ブレイキン選手権

各議案とも山田淳専務理事、金子和裕常務理事、中道俊之業務執行理事、岸尾政弘総務部長、川上勲総務部長補佐からの詳細説明を経て、それぞれ満場一致による承認を受けました。理事会承認の各議案については8月末に開催予定のJDSF総会に上程されます。

第2号議案の2019年度事業報告及び決算の件について、適正であるとの鈴木一夫監事からの幹事報告に続き、通常とは異なる内容を含む主要議案の概要としては、第3号議案：新型コロナウイルス問題に対する緊急借入金等の対応に関し、新型コロナウイルス感染症の影響を受け各種事業が停止していることによる資金繰りに対応して、新型コロナウイルス感染症特別貸付制度を利用し、新型コロナウイルス感染症特別貸付制度を利用することが承認されました。

第4号議案：機構改革の件については、ブレイクダンス部

のブレイクダンス本部化に伴って、石川勝之ブレイクダンス部長はブレイクダンス本部長に、田邊副会長逝去に伴う後任人事として、浅野勉PD管理本部長、酒井文男PD事業本部長の就任、事務局長の山田淳専務理事から金子和裕常務理事への交代と、事務局担当理事への中道俊之就任、金城庸夫副委員長の資格試験制度委員会委員長就任などが承認されました。また、コンプライアンス委員会委員長には多賀啓弁護士にご就任いただきました。

中道業務執行理事から説明された、第5号議案：諸規程の制定及び改正の件に関しては、職務分掌規程と職務分掌要領、倫理規程の改正、また新たにブレイキン強化選手規程、倫理問題相談窓口運営規程、処分規程、スポーツ仲裁規程が制定され、ガバナンスコードへの準拠についての検討が加られました。

第6号議案では定款に基本財産の規定を加えること、第7号議案として機構改革に伴ってブレイクダンス本部長となった石川本部長が理事候補となることが承認されました。さらに、2021年度正会員選挙に関する選挙管理委員等の指名、会費に関する規程改正、事務局給与規程改正などが承認された後、最終の第11号議案として今後の総会と定例理事会日程についてが諮られ、定時総会が2020年8月30日(日)14:00～、定時理事会が2021年3月7日(日)14:00～と決定しました。

その後、議案審議に付随して報告が行われた1～3の報告事項に続く、国体参加を目指した県体協への各都道府県ダンススポーツ連盟加盟進捗状況、市原則之理事の中国新聞投稿記事、今後の主な主催事業として、中止となった第14回オールジャパン・ジュニアダンススポーツカップ代替イベントとしてのオールジャパンジュニアリレーション(youtube利用)、第39回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権／第2回全日本ブレイキン選手権の予定などの報告がありました。



理事会運営はGoogle Meet併用で実施された



新理事に就任する石川勝之ブレイクダンス本部長



参加者による理事会終了後の記念撮影

独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成事業

2019年度の実施状況は以下のとおりです。

●くじ助成

事業名	実施結果	助成金確定額	助成金の使途
第14回オールジャパン ジュニア・ダンススポーツ カップ2019 in 東京 (於：BumB東京スポーツ 文化館)	ユース、ジュニア、ジュブナイ ル、女子高校生、女子中学生、 小学4～6年生、小学1～3年 生の各部門で、スタンダード、 ラテンの2区分を行ったほか、1 チーム5名以上のフリーダンス チーム対抗戦と、ソロ競技を中 学生と小学生以下の2区分で実 施した。	1,420,000	・ 審判員、実行委員への 謝金及び交通費 ・ 会場借用料 ・ 大会プログラムの作成 ・ 競技用背番号 ・ その他
ドーピング検査推進事業	熊本、大阪、静岡、北海道、仙 台の各グランプリ及びアジア ンダンススポーツゲームズにお いて実施したドーピング検査に Nf.repを派遣した。	511,000	・ Nf.repに対する謝金と 交通費
広報誌 (Dance Dance Dance) 発行	春夏秋冬の4回の広報誌を遅延 なく発行することができ、当連 盟の運営状況や幅広い会員の活 動を全国の会員等へ発信するこ とができた。	7,178,000	・ 広報誌の印刷費 ・ 広報誌の梱包、発送 ・ 取材のための旅費
Asian World DanceSport Festival 2019	世界ダンススポーツ連盟公認競 技会として、PDオープンのス タンダード、ラテン部門を、ま た、当連盟公認競技会として、 シニアⅡ及びシニアⅣのスタン ダード部門、23歳以下スタン ダード部門、 ラテン部門を実施した。さらに、 中学生以下及び小学生以下の部 門を併催した。	4,228,000	・ 審判員、実行委員への 謝金及び交通費 ・ 会場借用料 ・ 大会プログラムの作成 ・ 競技用背番号 ・ その他
小 計		13,337,000	

●基金助成

第22回 東京オープンダンス スポーツ選手権	WDSF公認のワールドオー プン・スタンダード／ラテンと PDスーパーグランプリ・スタン ダード及びU-23スタン ダード／ラテンを実施する予定で あったが、新型コロナウイルス 感染症の影響により中止した。	953,000	・ 会場設営準備費用 ・ チラシ・ポスター制作代 ・ 音楽CD制作代 ・ メダル、トロフィー代 ・ 海外審判員旅費 キャンセル料
小 計		953,000	

●競技力向上助成

選手強化	4,163,000
小 計	4,163,000

●全体

合 計	18,453,000
-----	------------

ダンススポーツZOOM 懇親会

京都府ダンススポーツ連盟会長
谷口 主嘉



谷口主嘉・小夜子夫妻

新型コロナ禍により、皆で集まることができなくなり私たちの生活は一変しました。観光業や飲食業をはじめとして営業自体ができないという大変な事態が発生しました。私自身の仕事も、イベント関係業者に和紙製品を中心としてOEM販売を行っているので大打撃です。そして趣味として大切にしているダンスを取り巻く環境も大きな影響を受けました。

仕事についてはイベント自体がなくなっているのでどうしようもないし、このこと自体を何とかしようと思っても不可能です。その中で自分にできることは何なのか…。商品開発・営業の立て直し・ホームページの再構築などに時間を使いました。その中で雇用調整助成金や日本政策金融公庫からの低利融資など、政府の対応は本当にありがたかったです。

京都府ダンススポーツ連盟については突然、主催競技会を3回連続で開催できなくなりました。特に3月1日に予定していた京都府選手権は3日前の決断だったので、連盟の中での意思決定や報告、競技参加者をはじめとした関係者への連絡や返金処理などかなりの時間と労力を費や

しました。それでもこの時点では、新型コロナの影響がこのように長引くとは思っていなかったのです。

これからダンス界がどうなっていくのでしょうか…。JDSFとして、また京都府ダンススポーツ連盟として何ができるのかを考えました。それぞれのダンスへの取り組み、サークルの維持、昇降級や会費、今後の競技会の見込みなど…。今までの考えを離れて、新しい枠組みで考えていかなければいけないかもしれません。

一部の選手などはオンラインで練習会やレッスンを始めています。皆が何とかできることをしたいという気持ちをもって行動しています。そしていつ終わるかかわからないこの状況下でそれぞれが悩んでいます。

しかし今、私たちはダンスを踊ることができません。大半のアマチュアダンス愛好家にとっては、サークルや競技会で踊ったりしないと意味がありません。

また、ダンスを職業とされている方はもっと深刻な状況だと思われます。今、ダンスから離れている人たちが時間がたてばダンスに戻ってくるのだろうか？そしてダンスを通

じて友人とのコミュニケーションを図っている人が、再び友人として戻ってきてくれるのだろうか？

私はこの状況のなかでダンスに関わる仲間が集い、情報交換をできる場所を作りたいと思いました。世間では「オンライン飲み会」が流行しています。この状況も苦し紛れの感は否めませんが、その趣旨と気持ちはよく理解できます。

また、アフターコロナと言われるコロナ収束後の世の中において「オンライン」という世界は間違いなくキーワードになります。好き嫌いはともかく「オンライン」を避けて通れない世界が近づいています。

ということで「ダンススポーツZOOM懇親会」を企画いたしました。メールアドレスを知っている人に合計850通ほどメールを配信、FacebookやLineでも告知、最初の参加人数は60名を超える人数で土曜日の夜21時から開始しました。ZOOMは仕事で使っていますが、大勢の方が参加しての懇親会は初めてです。

6名ずつのランダムな小グループに分けてグループ内で簡単な自己紹介。全員が集まって希望者による告知タイムやかくし芸。テーマ別にグループに分けての討議。そしてその発表会。最後はYoutubeのカラオケを画面共有して元気の出る歌を全員で合唱しました。

久しぶりに会える懐かしい人とも画面で再会でき、「このような懇親会ってなかなか良いね！」と、楽しい時間を過ごすことができました。

この懇親会は毎週土曜日に計6回行いました。全国から私の友人をはじめとしてダンス界に影響のある方にも大勢参加していただきました。



告知タイムの様子

「これからのダンス界について」
「オンラインレッスンについて」
「オンライン練習会について」
「単なる飲み会」とテーマ別の討議
はかなり内容が濃いものでした。

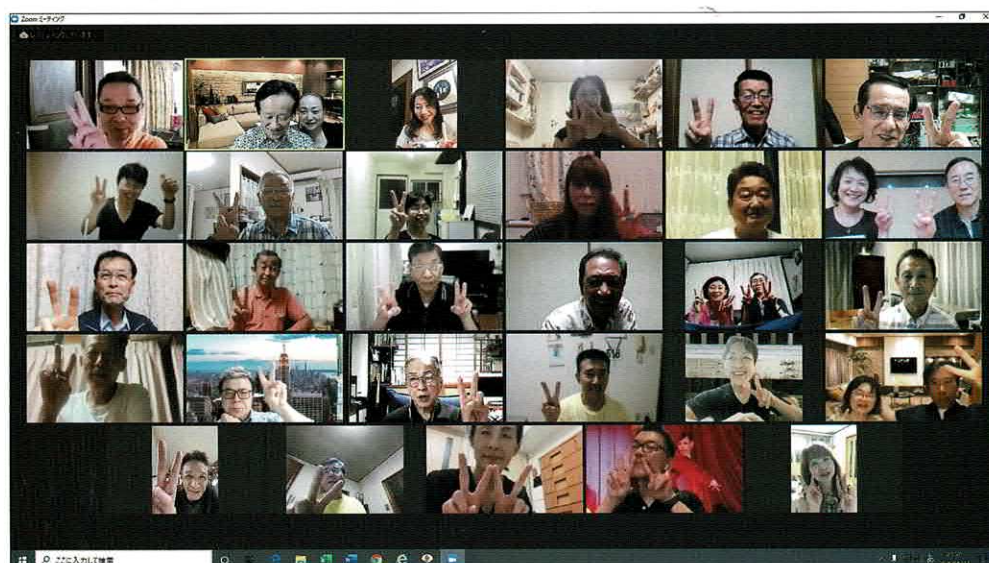
6回で当初の目的は達成できたので、これからはこれまでの参加者だけに案内してこじんまりした懇親会を月に一度程度開催しようと思っています。

また、参加した人を中心にこのようなダンス関係者ZOOM懇親会が複数開催されれば良いなと思っています。そしてJDSFのブロック委員会や代表者会議などの会議がZOOMで開催できるようになって、より有意義な討議をできるようになってほしいと願っています。

実際に京都府ダンススポーツ連盟では、理事会の欠席者に対してできるだけZOOMで参加するように要請をし、私が個別に連絡をとりながら全員がZOOMで会議をできるようになりました。その結果、突然の理事会開催でも全員がZOOMで会議を行い、競技会開催中止という重要事項も短時間で決定することができたのです。

そして何度かZOOM会議を繰り返す中で、ZOOMのほう在实际に集まるよりも時間とお金をかけないで済み、集中して会議をすることができるということがわかってきました。コロナ禍によって連盟の予算がかけられなくなっている現状では、京都府ダンススポーツ連盟の会議はすべてZOOMによって行うことになっています。そしてZOOMで話をするることによってよりお互いの理解が深まったようにも思います。

ダンス関係者ZOOM懇親会を通じて仲良くなれた人も大勢います。これからの世界で新しい通信ツールを使いながら、より心を通じ合えるつながりを築きあげていきたいと思っています。



コロナ禍に必要とされる ダンスと可能性について

■プロフィール

幼少の頃より講師をしていた祖母の影響でダンスをはじめ。三笠宮杯全日本ジュニア選手権や東京インターのJr.部門優勝を重ねる。日本の初代Jr.の世界選手権代表選手として、St・La共に選出され、石原・杉崎組(St)や瀬古組(La)と出場を果たす。大学進学後は、国内外の一線の教育機関で学び、舞踊教育学を専門とした研究者となる。同時期に数々のJDSFグランプリ大会でファイナリストとして活躍し、競技引退後はJDSF公認審判となる。



田島 正浩

(舞踊家・振付師, 舞踊教育学者)

2020年、新型コロナウイルス Covid-19の影響下、東京オリンピックも延期されて、世界は一変してしまいました。舞踊家・振付師・講師として、舞台活動や教育分野を生業として生きる身としては、人々との対面の関わりや触れ合いを持って踊ることが中心であったことは言うまでもないが、「自粛要請」や「緊急事態宣言」といった政府発令のあった“with コロナ”の時代において、そんな“当たり前前の関わり方”も変容してゆくことになった。活動制限により、対面の振付指導も教室での授業指導もできない、国立劇場での舞踊公演の出演予定もなくなってしまったのだ…。



舞踊家・振付師としても国内外の舞台やレクチャーで活動

現在は「緊急事態宣言」の解除後で、段階的に社会活動が再開されつつあるが、未だに高齢者や持病を持った人々を中心に「感染が心配でなかなか外出ができない」といった声も少なからず聞く。本人には「外に出たい」「活動を再開したい」という意志があっても、家族の心配の声で外出を躊躇しているというケースも多いようだ。また、若年層であっても、たとえ踊ることを生業としていたとしても、今までの様に踊る機会は“with コロナ”の制限下で多くが不可とされ、競技会やデモンストレーションといった表現の場もどんどん減少してしまっている。

このような状況が続けば、日々の生活にダンスを取り入れてきていた人々にとっては、運動・交流の機会や健康面を鑑みても危機的な状況となるだろう。外出自粛による「運動不足」や「健康の二次被害」についても研究報告や学者による言及・報道が増えており、社会的にも問題視され始めている。一専門家として、自らも何かできないだろうかかと強く感じると同時に「果たして人は、ダンスや芸術が無くても生きてゆけるのだろうか？」そんな問を自らの身体に問い掛ければ、生きられたとして、心身ともに健やかに生きる為には、欠かすことのできないのも確かなことであろう。今の時代に、「ダンスが、ダンスによって、ダンスだからこそできること」とは？！

一昔前まで、ダンススポーツの様な生身の「身体活動」に対して「情報技術 (IT)」という分野は、PC画面前でじっと作業をするというイメージからよく対比して語られてきたが、近年は(“withコロナ”においては“寧ろ”)画面を前に身体を動かし交流するというところに多く焦点が当てられる様になったのも事実。「オンラインレッスン」等は、コロナ

以前の世の中にも存在していたが、ヨガや体操、楽器の演奏や歌、ダンスもその例外では無く様々な身体活動が「オンライン」や「リモート」で人々の生活に浸透してゆく様子が日々報道されている。

筆者もコロナ禍に入り早い段階から、プロダンサーや俳優らのレッスン依頼の仕事オンラインに切り替え、千代田区・台東区・小金井市のシニアからジュニアまでの生涯学習クラスや新宿区・港区での障害者ダンスクラス(ボランティア活動)に対しては、SNSグループを活用して、無償にてエクササイズ動画配信を続けてきている。都体協の1stケースとしてジュニアのオンライン指導も承認された。また、Facebookで限定発信したエクササイズ動画を皮切りに、全国各地のダンス教育を専門とする大学教授陣からも続々とオンライン授業教材の提供依頼が入り、新型コロナ指定病院の都立病院の医療従事者の方々にもエクササイズ動画が複数配信されている。

ダンススポーツ連盟内では、緊急事態宣言発令直後から在住地東京の都連指導部とジュニア育成部や、講師として縁のあった神奈川県連のジュニア育成部にもサンバのホーム・エクササイズ動画が配信された。サンバはダンススポーツの種目としても踊られ、日本の学校教育においてロックやヒップホップと共に指導要領の「リズムダンス」の学習内容でもある。発祥のブラジルでは、老若男女が陽気で軽快なリズムを感じて全身で踊り関わる、正に「踊る原点」を感じさせてくれるダンスである。

使用楽曲は、音楽家の演奏協力のもと、テレカンファレンスを重ねて著作権にも配慮しつつ、リモート共演のかたちをとった。ダンスモデルの協力者についても、レベルや年齢も問わず「老若男女が誰でも取り組めること」を念頭に置いて a.競技指導者レベル b.シニア普及指導員 c.シニア競技選手(シニア日本代表経験者) d.ジュニア初心者&ダンス未経験



花柳邦秀雅として日本舞踊を踊る姿



動画協力者の音楽家と共演の実技レクチャーにて (beforeコロナ)

の家族といった各層の協力者に出演依頼を出した。動画の作成・編集作業については、当初都連IT部への作業協力を考えていたが、技術的な問題やコロナ禍の影響もあり、仕方なく素人仕事ながら筆者が全て統括して行くこととなった。

指導部の配信は、コロナ禍で暫く途絶えてしまっている連絡・交流機会にも役立つ様にと、作成協力者の皆さんにも許諾を頂いて、公認指導員のみならず受講者までとシェア許諾範囲を拡大した。これをきっかけに、連絡機会としても各人の声を聞き、安否確認や近況報告までに繋げてもらえればという思いからのことである。但し、配信期間が都連事務所の休業と重なってしまい、全44区市連盟の連絡作業は、筆者と指導部メンバーで担当することとなった。部長をはじめPC作業に慣れない高齢の指導部員もおり、少人数でメールと電話連絡によるダウンロード方法の説明から確認までと、長時間に及ぶ配信作業がなんとか全て終了した。高齢の会員を中心に、PC操作の苦手な人やPC自体を所有していない人も少なからずおり、所謂「情報格差」についても肌で感じる経験ともなったが、ダウンロードが不可能な場合はDVD送付などの対策もとって、全ての区市連盟の担当者に連絡が完了した。

これまでの配信の仕事を通して、お陰様でダンススポーツのみならず他ダンス・舞踊種・体育種目も超えた世界各国の一线で活躍するプロや、芸術分野も超えてオペラの演出家といった



Samba de "ホール遊び"
（壁面などで各自工夫して、ポーズをとりまじよう）
イメージの言葉がけを用いた指導により構成された配信動画



サッカーパスをイメージしてのステップ習得
（未経験者にも理解しやすい指導）



リモートで離れていても皆で最後の挨拶まで

アーティスト達からも多数好評が得られた。同時に、ダンス経験の無い視聴者からも、「私もできそう!」「これならやってみたい!」「凄く楽しいっ!」「とても良い運動になる!」といった声が多数寄せられており、ダンス初心者や苦手意識を持っていた人々の感想からも「苦手なサンバが楽しめるようになった」等の意識改善がみられた。これはつまり、技術指導ベースのレベル別指導でなくとも、トップレベルのプロから初心者・未経験者でさえ共に楽しめる内容として各人の学習が達成されたことを示している。冒頭の「ダンスだから

こそできること」という特性が上手く生きた結果といえよう。

実は、今年開催中止となった前述の国立劇場での舞踊公演についても後日談があり、演出の松本幸四郎氏の呼び掛けの元、全国の舞踊家がリモートで集結して、NHKの「にっぽんの芸能」にて映像作品が放映された。顔合わせから振付稽古までを、オンラインや動画配信で行い、スタジオ撮影も三密対策をとって、1人ずつのグリーンバック撮影となった。ニュースやSNSでも沢山取り上げられ、新しい映像舞台表現として注目される舞踊作品となった。

ダンス界でもオンライン競技会がスタートしており、徐々に現役選手の踊る機会が得られる様になれば良いと思い注目している。他のダンス・舞踊種では以前からあったスタイルではあるが、予選を動画審査として、決勝をソロ〜少人数競技で三密対策をする等の開催方法も考えられる。今年度の三笠宮杯全日本選手権は、無観客試合と動画配信によるコングレス開催が予定され、筆者はコングレスの講師として主指導の依頼を受けている。少人数にて三密対策をとり、音楽家や若手トップ選手〜シニア層のモデル協力も得てのレクチャーケースを紹介する予定だ。何かを「表現(&交流)」することや、「リズム」を感じて踊ることといった「踊る原点」に焦点を当て、初心者から上級者までの視聴者が共に学習可能な内容を例示する。今後は、動画配信等についても、幅広い見識者の集まるGeneral Division (GD) を持つダンススポーツ連盟として、IT専門家に制作協力を得た作成・配信が大いに期待される。

暫く続くであろう“with コロナの時代”に、ダンスから各自のできる形で「免疫力」の要となる適度な運動機会を見出せれば、と思う。ダンススポーツは、ペアダンスが主な特性であり、触れ合いが大切ではあるが、どんなダンスや舞踊であれ、離れていても各々がダンスを通して音楽を感じ、表現を楽しむことも可能である。逆に機会と捉えれば、この期間に自らのダンスとの向き合い、他者表現からも学び合うことに重点を置くことは、より自立した各人の表現が力を合わせて成るペアダンスへの道導としても有意義であろう。

【主な学業・研究所属履歴及び所属団体】

法政大学国際文化学部→Monash University→法政大学大学院国際文化研究科→早稲田大学大学院文学研究科舞踊コース→筑波大学大学院舞踊研究室

日本スポーツ教育学会 (JSSE) : 正会員
公益社団法人日本女子体育連盟 (JAPEW) : 特別会員
公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) : 公認審判員

2020年度オールジャパンジュニア 令和2年度全国大会代表選手選考会



笹山治一理事長のご挨拶

7月5日(日)に富山県のJELダンススポーツクラブにおいて、ジュニア大会を開催いたしました。出場者と保護者の皆さん、関係者の皆様のご協力で無事大会を開催できましたことを心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で競技会が軒並み中止の中、JDSF本部がオールジャパンジュニアカップを開催ギリギリまで目指して準備されていると聞き、子供たちの目標としている競技会なので、その前に富山県で競技会を開催して欲しいとの要望を受け企画いたしました。その後、残念ながらオールジャパンジュニアカップは、中止の決定がされました。富山県ダンススポーツ連盟でもこの競技会を開催するか、中止とするかの検討がされました。今年3月からの大会は、すべて中止となり、練習場所も使用できなくなるなど自粛生活が長くなる中、家での自主練習やオンラインでの練習を続けてきた子供達の努力やモチベーションを考え、政府やスポーツ庁・JDSFの新型コロナウイルス感染防止対策のガイドラインを守り、開催することに致しました。延べエントリー数46組23人の選手と保護者と審判兼役員が11人と最小人数での開催となり、また、会場にその全員が集まらないよう、タイムテーブルを調整し、4部構成としました。

午前	第1部	★プレジュブナイル・プレジュニアI 表彰式1回目
	第2部	★プレジュブナイルI 表彰式2回目
午後	第3部	★プレジュニアIIとレディース戦・ プレユース戦スタンダード 表彰式3回目
	第4部	★プレジュニアIIとレディース戦・ プレユース戦 表彰式4回目

県内選手にはヘアメイクを自宅で行ってもらい、会場入り時間も細かく指定させてもらうなど、滞在時間の短縮や会場にいる人数の調整にもご協力して頂きました。また、会場入りの際は、1組ずつご案内し、入口に消毒薬を設置、健康チェックシートの提出と検温と選手受付を行い、他の選手とのフィジカルディスタンス確保のため指定席を決めました。選手入場の際も入場口に並ぶことを止め、フロアの周りに各選手と保護者の席を決め、そこからの出入りとし、表彰式においてもその席から1組ずつお呼びして賞状をお渡し、ご自分の席に戻っていただくようご案内させていただきました。換気は10分から15分おきに窓を開け行いました。選手たちがフロアで演技をする場合を除き、熱中症に配慮して原則マスクの着用など様々な面で皆様にご協力をいただきました。無観客、保護者とコーチのみの入場で会場内は、普段の大会とは異なりますが、選手たちは、力いっぱいの



プレユースS / プレジュニアII
St.La 優勝
原口侑弥・大西陽来里 組



連続44曲踊り切り、
レディース戦 St.La優勝
西嶋万葉・岩崎咲希 組

カップ・三笠宮全日本選手権等 ・富山県代表選手選考会

富山県ダンススポーツ連盟ジュニア育成部副部長 大西 早織

パフォーマンスを發揮してくれました。

最多曲数を踊ったのは、プレユーススタンダード・ラテン、レディース戦スタンダード・ラテン、ジュニアIIスタンダード・ラテンにエントリーした、西嶋万葉・岩崎咲希組で、午後から連続44曲を踊りきりました。長野県から3組の選手の参加があり、向山翔矢・山田爽児組がプレユースラテンで優勝、小林才時・前田佳音組がジュニアIIラテンで準優勝、南山雄大・山田栞愛組がプレジュニアIラテンで優勝の好成績を収めました。富山県内選手は、西嶋万葉・岩崎咲希組がレディース戦スタンダード・ラテンともに優勝、原口侑弥・大西陽来里組がプレユーススタンダード、プレジュニアIIスタンダード・ラテン

の3部門で優勝、片岸希衣・籠瀬滯組がプレジュニア

Iスタンダード、プレジュブナイルスタンダード・ラテン、プレジュブナイルIサルサ・メレンゲの5部門で優勝を収めました。

富山県ダンススポーツ連盟では、この大会に続き、1組ずつ審判員の前で踊り評価シートをお渡しし、自分たちの強み・弱点を分析するソロコンベンin富山や、動画診断・動画講習の配信などを企画し、コロナ禍におけるダンススポーツの継続に努めていきたいと思ひます。



表彰状の授与



大会会場



競技風景



選手たちのカー杯のパフォーマンス



役員の皆様

コロナウイルス禍での再出発

新宿区ダンススポーツ連盟理事長 宮原 教子

オリンピックイヤーの2020年、世界各国から選手を招き、多くの感動を共有し、スポーツの素晴らしさを世界中にアピールする輝かしい年となるはずでした。

1月には駒沢オリンピック総合運動場体育館で、東京都主催「第1回シニア・コミュニティ交流大会」が開催されました。囲碁・将棋やカラオケなど、シニア世代に親しまれている種目による交流大会で、ダンススポーツも参加しました。当日は、小池百合子都知事も来場され盛大に開催されました。当連盟も平日ながら2チーム参加し健闘しました。

そんな記念すべき年が、「新型コロナウイルス感染症」の世界的拡大により一変したのは周知の通りです。世界保健機関（WHO）が、世界的大流行（パンデミック）宣言をし、我が国でも、1月末に初の感染者を確認して以降徐々に感染者が増加し、3月24日「東京オリンピック・パラリンピック」の1年延期が決定されました。諸外国が次々に都市封鎖をするなか、4月7日、東京を含む7都府県に対し「緊急事態宣言」が発令され、その後全国に拡大されました。

新宿区では、3月1日から区立体育館が休館となり、他の公共施設も利用中止となりました。予定していた競技会や講習会は中止され、連盟及び加盟サークルの活動は休止となりました。

外出自粛により、多くの企業、店舗が休業しました。演劇、コンサートが中止され、劇場、ホール、映画館が休館となり、街から人が消えました。スポーツ界では、選抜高校野球、全国高等学校総合体育大会、鹿児島国体が中止され、ねりんピックは延期となりました。

外出自粛の効果で感染者数は減少し、5月の連休明けから段階的に緩和され、5月25日、「緊急事態宣言」は全面解除されました。経済活動再開を希望する声は強く、街に人が戻りつつあります。海外との交流も徐々に再開されています。

新宿区でも、漸く7月15日から体育館等、公共施設の団体利用が再開されました。但し、感染症拡大を防ぐため、3密（密閉・密集・密接）を回避し、新宿区の基準として、ダンスを組まないで行うよう条件付きです。当面は、シャドー練習です。サークルや講習会の参加者は、特定のカップルではありません。止むを得ないと判断し、納得して参加下さる方を対象に再開を決定いたしました。

自粛期間中、事務局には中断した講習会のその後や、サークルの再開を待ち望む多くの方々から問い合わせがありました。



新宿区ではマスクを付け、ソーシャルディスタンスを保って練習再開



東京都主催「第1回シニア・コミュニティ交流大会」に参加した新宿区ダンススポーツ連盟の皆さん（右から二人目宮原教子さん）

た。好転しない状況に、「辛抱して待ちましょう」としか言えず、心苦しい思いをしていました。

僅か半年前までの何気ない日常生活が、いかにありがたく、尊いものであったかとしみじみ感じました。これまで諸外国を巻き込んだ感染症に対し、島国日本の地理的環境や、優れた検疫体制、また行き届いた「公衆衛生」により、どれ程守られていたかと痛感しました。

各国の都市封鎖が解除され、経済活動が再開すると共に感染は再び拡大し、世界全体では既に1300万人を超えています。感染者数が多い国々と、我が国の違いを考えた時、先述の守りと同時に、国民性として「日本人はきれい好き」だと思いました。幼少期から身についた、「手洗い」の習慣や、「ごみを捨てないように」等の、公共マナーに対する意識の高さがあるのではと思います。マスクに対して違和感が少ないのも幸いしていると思っています。感染症拡大を防ぐ、「新しい生活様式」を遵守し、サークルと連盟の活動を再開することが最重要課題だと思っています。

電話やメールを通して、ダンスを始めたばかりの受講生も、長年活動を共にしてきた仲間も、ダンスが好きで、再開を待ち望んでいる思いがヒシヒシと伝わってきます。そんな皆の気持ちを受けとめて、主催者の一人として、参加者の安全を確保し、どう運営をするか責任を感じます。

スポーツや音楽・芸術は、人間が生命を維持する上で、直接関わりが無い分野です。しかし、長引く自粛生活の中で、「心」の健康を維持するために、必要不可欠だと感じました。ただ生きるのではなく、より良く生きるための必須要素だと思いました。

東京では、このところ感染者数が連日3桁を超え、予定通り再開出来るか不安になります。毎日のテレビ報道に一喜一憂しながらも、再開に向けて準備を致しました。「新宿」と言う土地柄、他団体と比べて、最も厳しい条件での再出発となるでしょう。それでも、38年続いたダンスの灯を消さないよう努めてまいります。

JDSF-PD関東甲信越ブロック ダンススポーツ競技会

2020年8月9日(日) すみだ産業会館

2020年春先から全国的に拡大した新型コロナウイルス感染症により、JDSFの公認競技会の実施中止が続き、8月になっても状況は改善していません。

そのような状況下、8月9日、JDSFが公開する「新型コロナウイルス感染予防対応競技会」開催ガイドラインに準拠したダンススポーツ大会が開催されました。

第31回JDSF-PD関東甲信越ブロックダンススポーツ競技会は、JDSF関東甲信越PDブロック運営委員会の主催、JDSF関東甲信越PDブロック東京都支部の主管によって東京墨田区、JR錦糸町駅前のすみだ産業会館を会場として実施。特例適用の公認競技会として、エントリーは組数制限による申し込み先着順、1部/2部の入れ替え制、健康チェックシートの記入と提出、競技中を含む会場内では、主催者配布のマスク着用、感染防止努力などに基づいて準備されました競技選手多数からのエントリーが、

競技会再開を心待ちにしてきたダンス競技愛好者の方々の強い気持ちを物語るものでした。ただし、残念ながら7月後半から感染第2波による罹患者急増を受け、出場辞退が増加してしまったのも事実でした。(延出場組数 St48組、La34組、合計82組)

当日のドアオープンには8:30分、第1部のラテン競技、第2部のスタンダード競技は、それぞれJDSFのA級、C級、D級計6種目の競技が行われました。競技はそれぞれ1次予選に先だったフリーパスの予備予選がラテン競技10:30分から、スタンダード競技13:10分からスタートしました。大会はそのまま各種競技に移り、12時過ぎには第1部の表彰式、16時前には第2部の表彰式が行われ、春から長く待ち望まれてきたダンススポーツ競技会は盛況のなか16時過ぎには閉会を迎えることとなりました。(広報部長佐藤 篁之)



ソーシャルディスタンスが徹底された準備フロア



競技前の待機スペースもソーシャルディスタンス万全



大会会長の篠田龍祐
JDSF-PD関東甲信越
ブロック委員長

A級スタンダードで優勝に輝いた
綾野晃志郎/長澤穂乃花組(東京都)

A級スタンダードの決勝戦。選手はしっかりマスク着用して踊っていた



A級ラテンで優勝した
高橋 海/和田享華組(ブルボンDST/千葉県)



新型コロナウイルス感染予防対応を考慮し表彰式も優勝者に賞状を手渡す簡素なスタイル

「新型コロナウイルス感染予防対応競技会」開催ガイドライン(改訂版)

① 主催者配布のマスク着用(選手も着用)の徹底、フェイスシールドの着用、対人距離2mの保持、健康チェックシート(記入)の提出(当日の検印、審査員、選手等、入館者全員に提出を要する)

② 競技中、競技前後の検印(検印)の徹底、検印シートの提出(検印)の徹底

③ 検印シートの記入は、選手本人または大会責任者に提出する(チェックシートは個人情報保護に充分留意し、最長1ヶ月は責任者が保持し、不要な場合は検印後で廃棄を要する)

④ 大会終了後2週間以内に感染発生した場合、自治体の関係機関へ報告、所属団体に報告連絡する。

新型コロナウイルス感染防止のための参加者健康チェックシート

参加者の安全確保のため、又、ダンススポーツの健全な普及発展のために皆様のご協力をお願いします。感染発生した場合、施設を含めず自治体の衛生部門と当日参加者へ、報告と連絡の資料となります。(この資料は個人情報の取り扱いに十分注意し、厳格に責任を持って扱います。)

氏名(フリガナ)	年齢又は年代	JDSF 会員番号
住 所	TEL	
E-mail		
所属加盟団体(企業名/出店業者の方)	① 団体 ② 単体 ③ 企業 ④ 特 別 ⑤ 個人役員	① 出店業者 ② その他
2. 本日の健康状況等(症状によっては、参加を控える場合があります)		
① 前の体調に比べて、発熱(37.5度以上)はありませんか?	有・無	
② 喉・喉の痛みなどの症状はありませんか?	有・無	
③ 呼吸困難や呼吸困難、新型コロナウイルス感染症関係者にもしくは ④ 感染症関係のある方とお話しましたか?	有・無	
⑤ 咳が出たり、息苦しい感じ、息苦しさはありませんか?	有・無	
⑥ 嗅覚・味覚の異常はありませんか?	有・無	
⑦ 過去14日以内の海外渡航歴、又は海外在住との濃厚接触はありますか?	有・無	① 海外渡航歴、② 海外在住
3. 参加者注意事項(厳守願います)		
① 施設利用に際して、主催者、施設管理側の指示に従い、参加者全員が安全に留意する。		
② 選手がフリーパスで競技をする場合は、検印シートの提出を要し、検印シートの提出を要する。		
③ こまめな手洗い、アルコール等による手消毒をする。		
④ 他の参加者、主催役員、スタッフとの距離(2m程度、最低1m)を確保する。		
⑤ 大声での会話はしない、足踏等はしない、必要以上に会場に留まらない。		
⑥ 飲食は指定の場所で行い、周囲の人と距離を保持し距離を確保し、会話を控えるにする。		
⑦ 各自が各自の持ち物、特にマスク、検印シート等は、持ち物の可能性のある場合は、ビニール袋に入れて密閉し、施設内や途中経過に持ち込まない。		
忘れ物をしないよう、競技終了の持ち物を確認する。		
衣服、ハンカチ、タオル等、飲み物、忘れ物は、感染防止のために原則廃棄となります。		
⑧ 競技中体調不良を感じた場合、無理せず速やかに主催者に連絡し、参加を継続するを協議する。		
終了後2週間以内に「新型コロナウイルス感染症」を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告する。		

私は、上記感染防止策の意義を理解し、安全に配慮して参加します。

2020年 月 日 氏名(自署)



0000 BIG

つなげています スポーツへの想い

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。

スポーツくじ **0000 BIG**

ダンス・ダンス・ダンス
第96号 (SUMMER)
令和2年8月発行

■ 発行人 / 山田 淳 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)
 ■ 編集人 / 神宮周二 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部相談役)
 ■ 編集長 / 佐藤肇之 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部長)
 ■ 企画 / 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
 ■ 発行所 / 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
 〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階 TEL.03-6457-1850 FAX.03-6457-1857
<http://www.jdsf.or.jp>

©本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。

www.toto-dream.com www.toto-growing.com ①9歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター